

第56号 平成26年9月16日発行



次世代を担う

若き経営者のステップアップ (農業基礎講座)

3頁に詳細記事

★頑張る若い担い手★

担い手組織の紹介 ～京都市農業青年研究会～

青年研究会は、およそ40年前に京都市内の若手農業者で組織され、各地域の枠を越えた交流や情報交換、栽培技術や経営などの勉強会や見学会を開催し、知見を広めています。

青年研究会を卒業されたOBの方は、地域の担い手として活躍されており、今でもOB同士で交流を続けています。

今年度からは、青年研究会員の加入地域を乙訓にも拡大し、加入年齢はおおむね40歳に引き上げて会員数の拡大を図っています。今年度の新入会員は、京都市4人、長岡京市2人で、総勢25人となり、年間行事を計画し、積極的に活動を行っています。

普及センターでは、青年研究会の事務局として、担い手育成の柱に位置づけ、支援をしています。



▲ 現地見学会（右京区トマト養液栽培）



▲ 勉強会

研究会役員一覧

地域名	氏名
北区上賀茂	森田 晃司
中京区西ノ京	水上 文彰
伏見区下鳥羽	山本 哲郎
伏見区向島	原田 亮平
伏見区淀	安達 祐司
西京区大枝	永守 大作
西京区榎原	出雲 与一
西京区牛ヶ瀬	林 明治

(敬称略)

体験参加も可能ですので、関心のある方や加入希望のある方は、お近くの研究会役員（一覧）又は普及センターまでご連絡ください。

農業基礎講座の紹介



当普及センターが実施している「農業基礎講座」は、農業をはじめとおおむね3年以内の方を対象として、農業の基礎技術について学ぶとともに、仲間づくりや自分の強みを感じることで農業経営者としての意識を持つことをねらいとして実施しています。

講座の内容は、土壌肥料や病害虫の講義、草刈り機などの実地研修、先輩農家のほ場見学等です。

受講生から聞かれた声として、「草刈り機の使い方はこのやり方で良かったのですね」、「これからは害虫の発生に気をつけたい」など気づきや自信につながっているようです。また、「早く一人前になって将来の事を考えたい」、「おいしいと言われるものをつくりたい」、「いろいろと試していきたい」などそれぞれ経営の目標ができたようです。

受講した人は、家で任せられる仕事が増えたり、見学先で学んだ栽培方法などを自分の経営に取り入れたりしています。

毎年開催していますので、興味をお持ちの方は普及センターまでお問い合わせください。



「ナス塾」で学んだ



「A京都中央主催による若手栽培者を対象にした「ナス塾」は、2年目を迎えました。

講師がほ場で実際に作業をしてみせることで、栽培の基本技術やV字仕立てのせん定方法等を習得してもらう講座です。各作業のポイントになる時期に4回程度開催され、普及センターも支援しています。講師は露地ナス夏秋栽培で優れた技能を保持し、「農の匠」として京都府に認定された向日市の山本進氏です。

技術で収量アップ！

昨年受講された松井健悟さん（長岡京市）にお聞きすると「講師の山本さんから教えていただいた基本的な技術やV字仕立ての樹形の作り方を実践し、作業効率が良くなった上に、今までにないくらい多く出荷できています。」とのこと。

今年受講生も「ナス塾」で技術を修得して、より多くのナスを出荷できるよう応援していきます。



▲ 左：山本氏 右：松井氏

被害が増加している ネギアザミウマ

今年も乾燥気味の気候が続き、ネギアザミウマが多発しました。ネギでは幼虫や成虫が葉の表層を食害し、カスリ状に色が抜けて白くなり、幼苗では生育不良となります。

また、アイリスイエロースポットウイルス (IYSV) を伝搬し、ネギに「えそ条斑」を生じさせます。京都府では今年初めて IYSV が確認され、現在各産地の発病状況を調査中です。この「えそ条斑」を防ぐためにも、ネギアザミウマの防除が必要です。



▲ えそ条斑

ネギアザミウマの発生と生態

ネギアザミウマは気温上昇に伴い5月から発生し6～7月にピークを迎え、高温時はやや減りますが、9月に再び増加します。成虫が葉に産卵して幼虫が生まれ、その後土壌中で蛹になり、羽化して再び葉に寄生して食害します。

ネギアザミウマの防除

多発すると防除が困難になるので発生初期から防除します。薬剤の感受性低下がみられるので、異なる系統の薬剤を用いてローテーション散布します。さらに雑草防除、防虫ネット、かん水による乾燥抑制など耕種的防除を組み合わせることで防除してください。

地域で大活躍

「頼れる農業士さん」

堀内 喜代さん

目指すは花きの生産振興

サラリーマンに嫁いではずの堀内さんが、旦那さんの趣味が高じて農業を始められたのが平成2年のこと。以来、左京区静原の花き専業農家として、夫婦二人三脚で頑張っておられます。

平成24年度の京都府花き品評会では、農林水産大臣賞を見事受賞されました。近年は花きの市場価格が低迷気味のため、野菜や豆、米の栽培も行い、大原の直売所にも出荷されています。直売では、お客さんとのつながりができるのがとても楽しいそうです。しかし、あくまでも花き生産を経営の中心とする堀内さんの願いは、「若い花き生産者が増えて欲しい」。そのためにも、日々の栽培管理に余念がなく、将来の花き生産の振興を目指しておられます。



▲ ナデシコ「テルスター」の苗の前に

発行 京都府京都乙訓農業改良普及センター

〒615-0846 京都市右京区西京極徳大寺団子田町15

TEL 075-315-2906 FAX 075-315-2909

<http://www.pref.kyoto.jp/kyotootokuni-f/>

平成26年9月16日発行